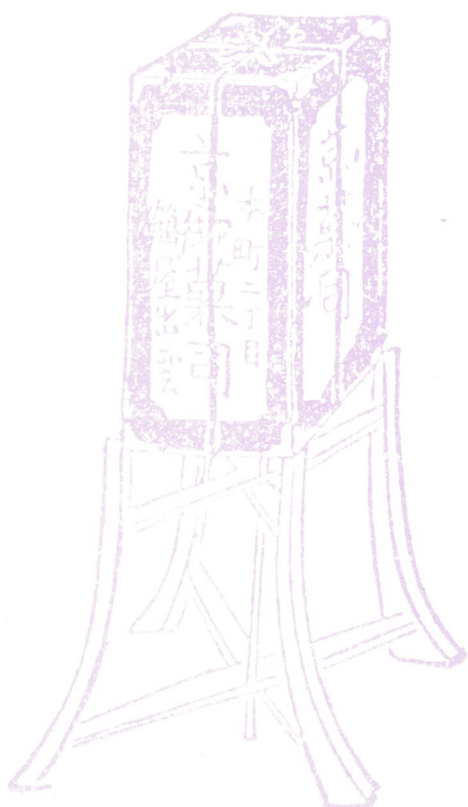
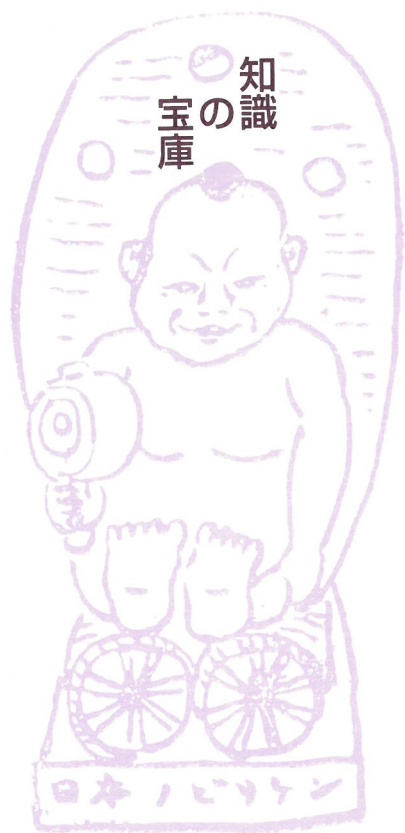


上古から第二次大戦後まで約一万二千種の事物の起源、
歴史と由来などを収録、興味津々の『ものしり事典』を復刻。

紀田 順一郎 監修・解説

事物起源選集

第二回
全5巻



クレス出版

森羅万象、世情一般の事柄について、その本質を把握するには、まず淵源由来を知るにしくはない。事物起源に関する文献資料の需要が絶えないのも、けだし当然といえよう。

日本では中世末期から事物起源を主題にした考証、辞典、便覧類の出版が行われてきたので、文字通り汗牛充棟であるが、その中でも最大規模のものが日置昌一の『ものしり事典』（初版一九五三年）である。石井研堂の『明治事物起源』（初版一九〇七年）も同じく大著であるが、対象を近代に限定しているところを、『ものしり事典』の場合は上古から第二次大戦後までの全時代を扱っている。

日置昌一（一九〇四〜六〇）は岐阜県出身の歴史家で、日本文化史を専攻した。学問好きの伯父の薫陶を受け、東京上野の帝国図書館に十七年間通い続けてほとんどの蔵書を読破、その学識を生かして『国史大年表』『日本系譜綜覧』『日本歴史人名辞典』『日本僧兵研究』など、多くの著作を発表、いずれも図書館、研究室用の基本図書として重視された。

このような百科全書派の学者にとつて、事物起源研究こそは本来の主題であつた。

た。今日残されている原稿類には、長年月にわたる調査、考証作業のあとが見られるが、その成果として戦後刊行されたのが『話の大事典』であり、さらに集大成としての『ものしり事典』であった。ただし『話の大事典』は六千項目すべてを五十音順としているのに対し、本書『ものしり事典』は項目を約一万に増補し、適切な分類を行っている点に大きな相違がある。この決定版によつて各巻を通読すれば、関連分野の体系的知識が得られるという大きな利点がある。

博覧強記の持ち主であった日置昌一は、一九五〇年代には活字や電波の世界でも活躍、「サンデー毎日」連載の対談「実談・虚談」では渋谷秀雄、大宅壮一ほかを相手に毎回ホスト役をつとめ、「週刊朝日」の「夢声対談」と人気を争つたことでも記憶される。上記著作の多くは昌一の衣鉢を継ぐ長男英剛氏の校閲を経るなどして、復刻再刊されているものも多い。本書『ものしり事典』は初版時には、おそらく出版事情のためか、全十巻の分冊として刊行されたが、このたびは読みやすく、参照に適した全五冊に合冊して江湖に供するものである。

事物起源選集 第二回 全5巻構成

（ものしり事典 日置昌一著、昭和27〜29年、全10巻河出書房刊）

- 9 ものしり事典 言語、文化篇
10 ものしり事典 風俗、女性篇
11 ものしり事典 芸能娯楽篇
12 ものしり事典 政治、宗教篇
13 ものしり事典 飲食、医薬篇

ものしり事典の特色

- 収載項目約一万二千種の多彩多様な内容
● 事物の起源、歴史と由来など、該博細密な汲めどもつきぬ知識の宝庫
● ユーモアと滋味溢れる独特の潤筆、興味津々に「話の百科事典」
● 奇抜珍稀な挿画写真など全巻に多数挿入した小美術館
● 古今の川柳三万余その他の小咄、和歌俳句、詩等を添加

目次

文化篇

Table with 2 columns: Topic (e.g., アートタイプの始, 愛妻會の始) and Page Number (e.g., 九, 一〇).

風俗篇

新平民の始

むかしから穢多や非人は民籍に記帳されなかつたが、明治四年(西暦一八七一年)八月二十八日に、従来の穢多非人の稱をやめて、ことごとく平民の籍に編入せられたので、世にこれを新平民といつた。その當時の穢多は二十八萬三千一百一人、また非人は二萬三千四百八十人、皮つくりなど雑種は七萬九千九百五十人でその總計は三十八萬二千八百八十六人あつたという。ここにおいて各地の戸長らは、一視同仁の聖旨をつたえるべく、自分から率先して自宅に新平民をまねき、お祝のさかずきをあげてながいあいだ侮蔑になれてきた村民にたいし、その範をしめしたということである。今日からは漸く人の仲に入り 風太郎

深夜業の廢止の始

昭和四年(西暦一九二九年)七月一日の改正工場法の實施によつて、午後十時から翌日午前五時までの深夜業を停止したのが、わが國における深夜業禁止のはじまりである。一日に追われて今日の陽を借しみ 静香
大臣も關白もなく共 稼ぎ 代志兒
内職の馬鹿にならない日を稼ぎ 塔 鳥
殘業を信じて妻は何か編み 鳴 鳳

人力車の起源



明治三年(西暦一八七〇)三月二十二日に、和泉要助、高山幸助、鈴木徳次郎の三名が東京府の許可をうけ「御免人力車」とかいたのぼりをたてて、日本橋の南詰に車をそろえたのはじまる。そのとき宣傳ビラには「御願濟人力車御披露」と題し「萬葉開けし聖代に高下貴賤の差別なく、それから再び工風を振し、有易を競ふ其中に、此度新規に製造なし御披露申す人力車は、諸事高價の節柄なれど、至つて賃銀御意安く、かつ忽に走の早きは、則ち車の製作方便、急げば必ず一時五里、風雨を凌ぐ構もあり、そが上、一男牽なる故、聊か人車の震る事なく、御安座なされて四方の風景、御意任せに見晴せければ、第一鬱氣を散せしめ、車器は高きにあざれば尊へ老少女子たりとも、怪我過ちの憂なし、必らず諸君試に、一度人車乗召給はば、猶再々の思召に極めて叶ひ申すになん」と洒落たものであつた。當初は荷車の上に四本のはしらをた

飲食篇

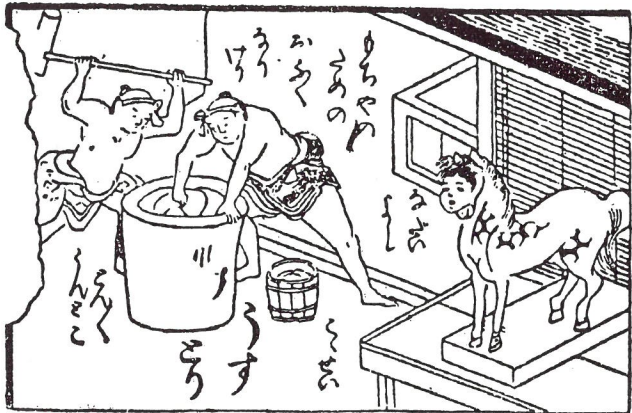
メロンの始

その原産地は中央アジアのアルメニア邊より印度方面にかけた一帯で、それがしだいと世界的に分布されたものであるという。日本に渡來したのは最近のこと、明治十七、八年のころ(西暦一八八四―一八八五)宮内省の内苑頭であつた福羽逸人がヨーロッパから種子を取寄せたものであり、またアメリカ種のメロンが輸入されるようになったのは、明治四十四年(西暦一九一一年)の時の農商務大臣大浦兼武が歐米視察の歸途、アメリカから持ち歸つたのが最初である。
果物屋メロンもあつて高いなり 木三
メロンを掌中の珠へ洋刀を添えて出し 久良岐
喰わずとも甘い匂のメロンなり 昌坊

餅の話



古くは毛知比、糰飯とも稱し、糰米を甑で蒸し搗いて圓くしたり、切餅としたものをいい、また糰米は粳米よりも



ネバリが強く、ネバるものは糰がいちばんであるから、それになぞらえたともいわれ、餅のカタチが望に通じ、あたかも鏡のようなので圓滿を象徴してモチと呼ぶようになったともし、また「持飯」(食つてから長く腹にもたれる飯)あるいは「携帯」(携帯に便利な飯)のつまつたものともいわれてい

Table with 2 columns: Topic (e.g., アイス・シヨウの始, 浅草公園の始) and Page Number (e.g., 四, 四).

藝能娯楽篇(上)

Table with 2 columns: Topic (e.g., 荒唐狂言の起源, 家元の始) and Page Number (e.g., 二, 二).

事物起源選集 第二回全5巻

紀田順一郎 監修・解説

- ⑨ ものしり事典 言語、文化篇 ISBN4-87733-259-6
- ⑩ ものしり事典 風俗、女性篇 ISBN4-87733-260-X
- ⑪ ものしり事典 芸能娯楽篇 ISBN4-87733-261-8
- ⑫ ものしり事典 政治、宗教篇 ISBN4-87733-262-6
- ⑬ ものしり事典 飲食、医薬篇 ISBN4-87733-263-4

A5判／上製函入／クロス装 平成17年4月25日刊行

揃定価68,250円(本体65,000円+税5%) ISBN4-87733-258-8(セット)

各巻13,650円(本体13,000円+税5%)

事物起源選集 全8巻

紀田順一郎 監修・解説

- | | | | |
|--------------------------------|--------------------|---------------|-------------------|
| ① 雅俗便覧 日本事物起原
事物原始考 | 金子 晋 編
松本 茂平 著 | 定価 8,200円(税別) | ISBN4-87733-231-6 |
| ② 増訂 明治事物起原 | 石井 研堂 著 | 定価19,000円(税別) | ISBN4-87733-232-4 |
| ③ 社会事物 起原と珍聞
座談の泉 事はじめ・物はじめ | 植原 路郎 著
植原 路郎 著 | 定価 9,500円(税別) | ISBN4-87733-233-2 |
| ④ 日本文化史 事物起源辞典 | 雨宮信一郎 著 | 定価 8,000円(税別) | ISBN4-87733-234-0 |
| ⑤ 農業事物起原集成 | 大野 史朗 著 | 定価13,000円(税別) | ISBN4-87733-235-9 |
| ⑥ 真説 事物起原大辞典 | 清教社編集部 編 | 定価14,000円(税別) | ISBN4-87733-236-7 |
| ⑦ 日本事物起原誌 | 植原 路郎 著 | 定価 5,600円(税別) | ISBN4-87733-237-5 |
| ⑧ 日本文化 事物起源考 | 速水 建夫 著 | 定価11,000円(税別) | ISBN4-87733-238-3 |

揃定価88,300円(税別) ISBN4-87733-230-8(セット)

宮廷文化研究 有識故実研究資料叢書 全十巻

宮崎 和廣 編・解説

- | | | |
|--------------|---------------|-------------------|
| 第一巻 総説一 | 定価 9,000円(税別) | ISBN4-87733-243-X |
| 第二巻 総説二 | 定価10,000円(税別) | ISBN4-87733-244-8 |
| 第三巻 年中行事・儀式一 | 定価 9,000円(税別) | ISBN4-87733-245-6 |
| 第四巻 年中行事・儀式二 | 定価 9,500円(税別) | ISBN4-87733-246-4 |
| 第五巻 年中行事・儀式三 | 定価 9,500円(税別) | ISBN4-87733-247-2 |
| 第六巻 装束一 | 定価 9,000円(税別) | ISBN4-87733-248-0 |
| 第七巻 装束二 | 定価11,500円(税別) | ISBN4-87733-249-9 |
| 第八巻 装束三 | 定価 8,500円(税別) | ISBN4-87733-250-2 |
| 第九巻 官職制度一 | 定価 9,000円(税別) | ISBN4-87733-251-0 |
| 第十巻 官職制度二 | 定価10,000円(税別) | ISBN4-87733-252-9 |

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-253-7(セット)



株式会社 クレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03(3808)1821 ㊚03(3808)1822 <http://www.kress-jp.com/>